

第14回市議会意見交換会の結果（1月27日、宝塚東高校）

<p>第1班</p>	<p>テーマ 通学時の困りごと</p> <hr/> <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員 （人数）2 人 （氏名）持田ちえ、大島と ・生徒 （人数）4 人
<p>（意見交換・発表の内容を要約してご記入ください。）</p> <p>先ず、アイスブレイクでは「甘党の人！」など、6～7の共通点探しをした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬の帰り道は暗いところが多いので、街灯がもっとあれば良い。生徒も、ランプ型ライトなど携帯可能なものがあると良い。 ・歩道が狭いが、自転車が通るので危険だ。自転車レーンを作って欲しい。 ・中山台地区は閑静な街並みなので、車・自転車のスピードを出し過ぎる。 ・東校を希望する人も、バス便が少ないので躊躇するのではないか。 スクールバスがあれば、一般の乗客に迷惑をかけることも無くなるので、作って欲しい。 <p>（参照）バス・電車・徒歩・自転車が通学手段だが、自転車通学は半数くらいではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 中山寺経由のバス便が、9：00～15：00 なので、他市から通学する生徒は不便。 ・中山観音・中山寺方面の通学路にコンビニエンスストアがない。またカラオケ店もない。 ・宝塚駅周辺に高校生が入りやすい店舗が少ない。 	

※2月4日（水）までに、議会事務局へデータでご提出ください。

第14回市議会意見交換会の結果（1月27日、宝塚東高校）

第2班	<p>テーマ 心と身体の健康</p> <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員 (人数) 2人 (氏名) 伊庭 聡・藤岡 和枝 ・生徒 (人数) 4人
<p>(意見交換・発表の内容を要約してご記入ください。)</p> <p>健康宝塚21に関する意見交換会 議事録 (詳細版)</p> <p>1. 開催概要</p> <p>テーマ：</p> <p>「健康宝塚21」をもとに、高校生の視点から“これからの健康づくり”について意見交換する</p> <p>目的：</p> <p>行政が策定する健康計画を、若い世代の感覚・実感に基づいて見直し、今後の健康施策や市政提案につなげるための意見収集を行う。</p> <p>参加者：</p> <p>高校生 (複数グループ)</p> <p>ファシリテーター (市議会議員)</p> <p>2. 導入説明</p> <p>冒頭で「健康宝塚21」について説明。</p> <p>国から示される健康政策をもとに宝塚市が5年間の健康計画を策定していること</p> <p>しかし、資料を見ても</p> <p>難しい</p> <p>実感がわからない</p> <p>自分たちの生活と結びつきにくい</p> <p>という課題があることを共有</p> <p>そこで今回は、</p> <p>「高校生の皆さんの感覚で健康って何をイメージするか」</p> <p>「こんな風になったらいいな」</p> <p>「もっとこうしたらいいと思う」</p> <p>という視点で、自由に意見を出してもらった形式とした。</p> <p>3. 意見出し (付箋ワーク)</p> <p>参加者から非常に多くの意見が出され、内容は以下のように多岐にわたった。</p> <p>出された主なキーワード</p> <p>運動不足</p> <p>高齢者の健康</p> <p>心の健康 (メンタル)</p> <p>医療費の負担</p> <p>病院の設備</p> <p>感染症・ウイルス対策</p> <p>朝ごはん・食生活</p> <p>健康食品</p> <p>不登校・いじめ</p> <p>スクールカウンセラー</p> <p>地域交流</p> <p>居場所づくり</p> <p>宝塚歌劇を活かした交流</p>	

4. 意見の分類

出された意見を全体で整理し、以下のカテゴリに分類した。

① 運動・身体活動に関する意見

公園に筋トレ遊具を設置してほしい

高齢者が安全に運動できる場所がほしい

気軽に通える運動施設が地域ごとにあればよい

市民大運動会など、みんなで参加できる機会がほしい

スポーツセンターは遠く、交通手段が課題

送迎バスがあれば参加しやすい

➡ 共通認識

「運動したい気持ちはあるが、場所と距離が壁になっている」

「歩いて行ける身近な場所」が重要

② 高齢者の健康・地域支援

高齢者が集まれる場所が少ない

近所で相談できる場所がほしい

世代を超えた交流の場が必要

➡ 高校生からも

「おじいちゃん・おばあちゃんのことを考えている意見」が多く見られた。

③ 医療費・将来不安

大学生になると学費が高く、医療費負担が不安

病気になった時にお金がかかることへの心配

難病でなくても通院費が重くなる

➡ 特に

「自分よりも先輩が困っている姿を見て感じた」という声が印象的で、非常に現実的な問題意識が示された。

④ 市立病院・医療体制への意見

他市では病院が新しくなっているが、宝塚は変わっていない印象

取り残されている感じがある

市内で高度医療を受けられる体制を望む声

これに対し、

市立病院の将来計画

ダヴィンチ導入

医師体制強化

将来的な建て替え計画（約7～8年後）

について説明が行われた。

⑤ 感染症・ウイルス対策

今後また大きな感染症が流行した時、宝塚市はどう対応するのか

コロナのような状況が再び起きた場合への不安

ファシリテーターより、

今後は「自粛一辺倒」ではなく検証結果を踏まえた対応になる可能性

最も重要なのは

規則正しい生活

運動

睡眠

食事

といった 日常の体づくり

という視点が共有された。

また豆知識として、

15分に1回程度の水分摂取が感染予防に有効

うがい以上に「こまめな水分摂取」が重要

という実践的な話もあった。

⑥ 食生活・朝ごはん問題

朝ごはんを食べずに登校している生徒がいる
中学生の頃から見かけていた
忙しい家庭環境が背景にあることも多い
「朝ごはんを食べられる場所があればいい」「無料や安価で食べられる仕組みがあれば」という意見が出された。

併せて、
子ども食堂
朝食支援を行っている団体が市内に存在すること
を説明。

➡ 課題として

「存在を知らない」「情報が届いていない」ことが浮き彫りとなった。

⑦ 健康食品・食の工夫

納豆は健康に良いイメージがある
野菜や健康的な食品を応援する仕組みがあればよい
スーパーでの健康応援キャンペーンのような取り組みを宝塚でも

➡ 健康を「我慢」ではなく
選びやすくする仕組みへの関心が高かった。

⑧ 心の健康・不登校・いじめ

小中学生の不登校が増えていると感じる
いじめの問題も耳にする
小中学生向けの講演会や学ぶ機会があればよい
親子で一緒に考える場があってもよい

⑨ スクールカウンセラーについて

非常に重要な意見が多く出た。
相談したいが
どこに行けばいいか分からない
いつ来ているのか分からない
常駐ではなく、複数校を掛け持ちしているため身近に感じにくい
「相談したい時に相談できない」

➡ 改善要望として

相談方法の周知
場所・時間・連絡手段の明確化
気軽にアクセスできる仕組み
が強く求められた。

⑩ 居場所・地域交流・宝塚らしさ

学校以外でつながれる居場所がほしい
世代や学校を越えた交流の場
宝塚歌劇をテーマにした体験や交流
宝塚という街の魅力に触れる機会

➡ 「宝塚らしさ」を活かした健康・心の居場所づくりへの期待が見られた。

健康（心と体）意見交換会：発表内容 議事録

発表テーマ

※「心と体の健康」※を軸に、運動・医療・食・心のケア・地域交流（高齢者含む）などを分野別に整理し、宝塚市として何ができるか意見交換を行った。

1. 体の健康：運動・身体活動

①運動機会を増やす提案

「運動会」とは別に、日常的に運動できる仕組みが必要という意見が出た。

運動施設をつくる／増やすことで、年齢や立場に関係なく運動しやすくなるのではないかと議論があった。

②デジタルも活用して運動参加を促す案

アプリ等（SIM という表現も含む）を活用しながら、

いろんな人が運動に参加できる仕組みがあると良い、という方向性が示された。

「運動したい人が動ける」だけでなく、運動が苦手な人も参加できる設計が大切だという雰囲気でもとまった。

2. 体の健康：医療・病院・費用（お金の問題）

①医療費負担の軽減（特に大学生世代）

大学生まで医療費負担を減らしたい（軽減してほしい）という意見が出た。

進学後は学費などもあり、病気になった時の負担が大きいという問題意識が共有された。

②病院（市立病院など）の整備・建て替え

病院に関して、建て替え・整備の必要性が話題になった。

医療費の議論と同様に、病院の建て替えは費用面のハードルが高いため、現実的には簡単ではないが、重要なテーマとして挙げられた。

3. 体の健康：食・朝ごはん（生活習慣）

①朝ごはんを食べないで登校する人がいる

身近に、朝ごはんを食べずに学校に来る人がいるという話題が出た。

食生活は体調や集中力にも関わるため、改善が必要ではないかという流れになった。

②地域の支援（子ども食堂等）の存在と「知られていない問題」

「いってらっしゃい食堂」「子ども食堂」など、支援の場が意外とあることを知った。

しかし発表者自身も含め、存在を知らなかったという実感があり、

「告知・周知をもっとした方が良い」という結論にまとまった。

“あるのに使われない”原因として、情報が届いていない点が課題として浮き彫りになった。

4. 心の健康：相談体制（スクールカウンセラー等）

①相談できる場所を増やしてほしい

心の面では、相談できる場所（スクールカウンセラー等）を増やしたいという意見が出た。

②「どこで・いつ・どう相談できるか」が分かりにくい

スクールカウンセラーについて、

どこでやっているのか／どう利用するのが詳しく伝わっていない点が課題として挙げられた。

そのため、相談したい人がいてもアクセスしづらい可能性がある、という問題意識でもとまった。

対応案として、もっと多くの人に分かる形で周知することが必要という方向性になった。

5. 心の健康：地域交流・居場所（高齢者含む）

①高齢者の地域交流を増やしたい

高齢者同士が仲良くなれる機会、または世代を超えた交流の機会があれば良いという意見が出た。

②宝塚らしさ（文化）を活かした「表現体験」

宝塚の文化に触れる体験として、

歌劇などをテーマにした表現体験を行うアイデアが出た。

文化体験が、心の健康や居場所づくり、つながりづくりにつながるのではないかと、という趣旨で共有された。

高校生の意見を踏まえた
心と体の健康づくりに関する提言書（案）
～健康宝塚 21 の実効性向上に向けて～

現状課題の整理

(1) 体の健康に関する課題

① 運動機会の地域格差

運動施設が特定の場所に集中している
高齢者や学生が「歩いて行ける距離」に運動環境が少ない
運動したくても“行くまでが大変”

② 医療費・将来不安

大学生以降の医療費負担に強い不安がある
学費と医療費が重なることで、受診をためらう懸念
病院整備や医療体制への不安感

③ 食生活（朝ごはん問題）

朝ごはんを食べずに登校する生徒が存在
子ども食堂等の支援はあるが、知られていない
支援が「点」で存在し、「線」になっていない

(2) 心の健康に関する課題

① 相談体制の分かりにくさ

スクールカウンセラーの
場所
時間
相談方法
が生徒に十分伝わっていない
「相談したい時に、どう動けばいいか分からない」

② 居場所・交流の不足

学校以外で安心できる居場所が少ない
世代間交流の機会が限られている
宝塚らしい文化に触れる場が若者に届いていない

提言内容（具体的提案）

提言①

「身近な運動環境づくり」の推進

内容

公園や地域拠点における

健康遊具

簡易運動スペース の整備を検討する。

高齢者・若者・子どもが同じ場所で使える 「世代共用型運動環境」を目指す。

期待される効果

運動習慣の定着（予防・未病）

高齢者のフレイル予防

医療費抑制への中長期的効果

地域交流の自然発生

提言②

若年層の医療費不安を軽減する仕組みの検討

内容

大学生世代を含む若年層の医療費負担について 段階的支援・情報提供の検討を行う。

経済的理由による受診控えを防ぐ。

期待される効果

早期受診・重症化予防

将来的な医療費増大の抑制

若者の安心感の向上

提言③

「朝ごはん支援」と情報の見える化

内容

子ども食堂・朝食支援団体の情報を

学校

市公式LINE

市ホームページ

等で分かりやすく一覧化・発信する。

「困った時にここがある」と生徒自身が把握できる仕組みを整える。

期待される効果

朝食欠食の減少

学力・集中力・体調の安定

生活習慣病予防

家庭負担の軽減

提言④

心の相談窓口の「見える化・使いやすさ」の向上

内容

スクールカウンセラーについて

相談場所

相談日時

相談方法（対面・申込方法等）を、生徒目線で再整理する。

ポスター・QRコード・デジタル媒体等を活用し、「迷わず相談できる導線」を整備する。

期待される効果

相談のハードル低下

不登校・いじめの早期発見

心の不調の重症化防止

教員負担の軽減

提言⑤

宝塚の文化を活かした「心の健康・居場所づくり」

内容

宝塚歌劇など地域文化をテーマとした表現体験・交流事業の検討。

若者と高齢者が関われる文化活動を支援する。

期待される効果

自己肯定感の向上

世代間交流の促進

宝塚への愛着形成

心の健康増進

※2月4日（水）までに、議会事務局へデータでご提出ください。

第14回市議会意見交換会の結果（1月27日、宝塚東高校）

第3班	テーマ 学習支援について
	参加者 ・議員（人数） 2人 （氏名） 中野 正 ・ 大島 千都世 ・生徒（人数） 3人
(意見交換・発表の内容を要約してご記入ください。)	
高校生からの主な提案：学習意欲を向上させる3つのアプローチ	
1. デジタル・アプリの活用（ゲーム性と競争）	
<ul style="list-style-type: none">・ 学習アプリの導入：市内の高校生と競い合い、競争心を持って勉強に取り組める仕組み。・ ゲーミフィケーション：ゲーム要素を取り入れた学習スタイルの確立。・ インセンティブ：学習進捗に応じたポイント制を導入し、経済的なメリット（欲しいものとの交換）を付与する。	
2. 授業形態の柔軟化	
<ul style="list-style-type: none">・ アーカイブ・オンライン化：授業の録音・録画により、身近な先生の解説をYouTube等で再確認できる環境整備。不登校や欠席時の支援としても活用する。・ リフレッシュ時間の確保：授業中にストレッチなどの休憩を取り入れ、集中力を維持する工夫。・ 教材のデジタル化：時代の変化に合わせたデジタル教科書の導入検討。	
3. 経済支援と実学の提供	
<ul style="list-style-type: none">・ タブレット購入支援：経済的な理由で購入できない生徒への支援金制度。・ 実社会で役立つ講習：塾などの代わりとして、自ら資金を得る手段を学ぶ「株の講習会」などの開催。	
議員の所感・今後の展望	
<ul style="list-style-type: none">・ 斬新な視点への驚き：大人の発想にはない多様な提案に、議員側も大きな刺激を受けました。・ 実現に向けた検討：提案の中には実現可能なものも含まれており、今後の検討課題とします。・ 直接対話の継続：生徒側から「議員による身近なテーマでの講演会」を希望する声があり、交流の継続が期待されます。	

※2月4日（水）までに、議会事務局へデータでご提出ください。

第14回市議会意見交換会の結果（1月27日、宝塚東高校）

第4班	<p>テーマ 安全なまち</p> <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員 (人数) 2人 (氏名) 桑原健三郎・末永やよい ・生徒 (人数) 4人
<p>(意見交換・発表の内容を要約してご記入ください。)</p> <p>【道路環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生から出された主な意見 宝塚市は山が多く、道路の凸凹やカーブが多いことから、自転車走行に危険を感じるという意見が出された。自転車レーン設置の要望に加えて、スピードを出して走る自転車やマナーへの不安、見通しの悪い箇所へのカーブミラー設置、雨天時に滑りやすい側溝（グレーチング）の危険性が指摘された。 ・意見交換の中で共有した内容・助言 自転車レーンの整備は道路幅の制約から難しい現状があることを説明するとともに、側溝（グレーチング）やカーブミラーなど危険と感じる箇所については、市のLINE通報システムを活用して市に情報提供ができることを共有。 行政だけでなく市民一人ひとりが危険箇所に気づき、伝える意識を持つことの重要性を伝えた。 ・見えてきた課題 LINE通報制度が高校生に十分周知されていないことが課題。若い世代にも届く周知方法の検討が必要。 <p>【災害対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生から出された主な意見 南海トラフ地震を想定し、宝塚市の備蓄状況や災害時の行動、外国語によるハザードマップの有無について意見が出された。 ・意見交換の中で共有した内容・助言 市の備蓄は、指定倉庫で行われており、各小学校では受水槽から水を供給できる体制が整っている。また、宝塚市では大規模な人的被害は想定されておらず、避難所に多くの人が集まることを前提としていないことを共有した。その上で、「自助・共助・公助」のうち、特に自助による日頃の備えの重要性を伝えた。 ・見えてきた課題 水の備蓄は行っているが、食料の備蓄まで出来ている生徒は少なく、避難カード・地域防災マップを見たことのない生徒が多い事がわかった。通学路や自宅周辺の危険箇所や学校マニュアルなどを事前に確認し、災害を自分ごととして捉えてもらう啓発活動も必要。 更に宝塚市のハザードマップの外国語対応の現状があまり周知されていない。有事に備えて周知方法の検討が必要。 <p>【医療体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生から出された主な意見 宝塚市では病院が少ないのではないか、事故や急病の時に遠方の病院まで搬送されるのではないかと、という不安の声が出された。 ・意見交換の中で共有した内容・助言 宝塚市内には7か所の基幹的な病院とかかりつけ医を含めた医療体制が整っていることを説明。阪神間で広域医療連携が行われており、救急搬送時は距離よりも症状に応じた専門医療機関へ搬送されることも伝えた。あわせて、救急車の適正利用の重要性と、判断に迷った際には「#119」救急相談窓口を活用できることを紹介。 ・見えてきた課題 医療体制や救急搬送の仕組み、救急相談窓口について、若い世代にもわかりやすい情報提供の必要性が課題。 	

第14回市議会意見交換会の結果（1月27日、宝塚東高校）

<p>第5班</p>	<p>テーマ お金・経済について</p> <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員 (人数) 2 人 (氏名) 田中こう、川口じゅん ・生徒 (人数) 4 人
<p>(意見交換・発表の内容を要約してご記入ください。)</p> <p>生徒たちが事前に疑問・意見を記入した付箋をもとに、すぐに答えられる項目は、なぜそう感じたかをヒアリングしつつ議員が回答を、似たような意見項目については、その困りごとの本質はなにかを共有して解決に向けてグループで意見交換をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝塚市では「お米券」の配布は。クーポン券や商品券よりコロナの時みたいに現物支給がいい。 ↓ 物価高騰対策については、国からの交付金を各自治体で用途を決めることができる（議会の役割も説明）宝塚市は、まずは、ひとり3000円の商品券を配布することが決まっている。現物支給については、個人によって望むものがばらばらであり、難しい。（コロナ禍では、感染者が外出できないために、生活用品を現物支給した） ・公園などトイレの清掃・管理にお金を使って欲しい。→現状、汚くて使いたくない（上の池公園） ↓ 家のトイレはきれいに使う。きれいな状況だとその状態をキープしたくなる。どうしたらいい？ ↓ きれいな状態の写真と汚されてしまった状態のビフォーアフターの写真をトイレに貼れば、使う人の意識に訴えることができるのでは ・公園にゴミ箱を置いて欲しい。（星の荘公園など） 議員から、以前は公園にゴミ箱が設置されていたが、捨て方やカラスの荒らしなどが原因で撤去された経緯を説明する。 ↓ 捨て方については、分別できるゴミ箱にしては？ネットやボックス型のゴミ箱は？ ↓ 狭い公園にそのようなごみ箱設置は難しい・・・ 市は地域の人たちに公園管理を任せようという動きがあることを説明 ↓ 自分の地域、公園はきれいにしようと思う人、地域に関わる人を増やすことが大切（自治会加入率も30パーセントくらいだから、若い世代も関わろう） <p>その他、通学バス便を増やして欲しいこと、障害がある人への補助（リハビリ、バス代など）を増やして欲しいことなどの意見があった。</p>	

※2月4日（水）までに、議会事務局へデータでご提出ください。

第14回市議会意見交換会の結果（1月27日、宝塚東高校）

<p>第6班</p>	<p>テーマ まちの魅力アップ</p> <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員 (人数) 3人 (氏名) 池田議員 寺本議員 森賀 ・生徒 (人数) 4人
<p>(意見交換・発表の内容を要約してご記入ください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの魅力アップとして、夜のまちの魅力アップを提案。例えば、ライトアップをしたり、夜のカフェラリーを実施して、観光客の滞在時間の増加を狙う取組はどうか。 ・デジタルツールを用いて宝塚の歴史、地域情報を提供する。SNSでの宝塚の魅力を発信する。 ・観光と防災の連携をする。観光マップに災害時の避難場所情報を掲載し、防災意識を高めたり、いざという時にも観光客が困らないように配慮する。 ・バリアフリーの推進強化。誰もが過ごしやすいまちづくりを提案。 <p>市民（宝塚市在住者）が過ごしやすいまちを作ることで、宝塚市の魅力をアップする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生の居場所づくり→自習室はあるが、使用する学生が多く取り合いになっている現状がある。公民館を見ると、使用されていない部屋があるため、利用者がいないときは、解放してもらえると学生は嬉しい。 ② まちの公園に屋根付きのベンチを設置し居場所を確保する。→夏は暑いので、屋根付きベンチがあれば、休憩しやすいと思う。 ③ 交通安全対策→狭い道や見通しの悪い道にカーブミラーがあると安全に通行することができると思う。街灯が少ない場所があるため、増設や光量をアップすることで夜間の安全が向上するのではないかと。また、身につける発光グッズを夜間に用いることを勧めることで、街灯が少ない所でも人が集まると明るくなると思う。 ④ モビリティ活用→自転車貸し出しサービスを充実させ、自転車で観光したり、自然体験ができる環境を整える。 <p>観光客へのサービスを充実させることで、まちの魅力アップする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 夏祭りの開催→目玉となるような夏祭りを行うことで、観光客を増やす。その中で、小規模な花火イベントを実施する。できれば、以前のような花火大会ができれば良いと思う。 ② 里山エリアでの活動を増やし、西谷の活性化を図る。観光客に西谷での里山体験を提供する。 ③ SNSの活用強化→宝塚市のSNSの存在を知らなかった。もう少し、拡散の方法を考えてほしい。SNSが充実することで、学生や観光客、市民にもまちの魅力が伝わり、賑わい創出となると思う。 <p>まとめとして、学生の居場所の確保と情報発信の充実化を図ることで、過ごしやすい環境になると思う。宝塚東高校の立地から学生は川西方面へ行くことが多いと話していた。宝塚駅方面にはほぼ行かないとのこと。その事から、宝塚駅周辺には、若者が集う施設や居場所が少ない認識があると感じた。実際に川西能勢口駅周辺はかなり賑わっており、若者が好きなショップも多い。わざわざ、宝塚駅方面に行く理由がないと話していた。以上の意見交換会から、学生たちが提案していることは、比較的宝塚市でも実施しているが、発信力が弱いのか、認知されていないことが露呈したと思う。若者には若者が使いやすいツールがあり、高齢者とは相容れないため、高齢者の使いやすさばかりを重視するのではなく、内容によって若者重視での情報発信も必要であるのだと思う。様々あるSNS媒体を効果的に使い分けることにより、より充実した情報発信となり、魅力や賑わい創出に繋がっていくのでは無いかと思う。</p>	

※2月4日（水）までに、議会事務局へデータでご提出ください。